

文化がつなぐ地域の“輪”

10月28日(日)のオープニング式典を皮切りに12月9日(日)まで「第63回くにたち市民文化祭」が開催されました。式典では初の試みとして、国立駅から公民館までガムラン音楽でパレードを行い、富士見通りが楽しい雰囲気になりました。1ヵ月半の間、たくさんの方が多彩な催しを観に来場してくださいました。今回は文化祭実行委員長と、文化祭初参加で式典を盛り上げてくれた〈パサール・スニくにたち〉に感想を寄せていただきました。

文化祭の魅力
実行委員長 黒瀬 智子
今回、平成最後の年に第63回市民文化祭の実行委員長を仰せつかりました。毎年、所属する〈合同いけ花の会〉の花展に参加するのが主でしたが、今回は時間の許す限り演劇、着物ショー、様々な楽器の演奏、書道、絵画などを観覧させていただきました。国際色もあり、そのすばらしいこと！
各団体の日頃の創作活動、練習の発表の場で、どの参加者も緊張の中にも実に生き生きと楽しそうでした。また、笑顔で温かく見守る観客は、おそらく知り合いの方が大半でしょうが、年々その知合いの輪も



第 707 号

2019年 1月5日
(平成31年)

「くにたち公民館だより」
ホームページのQRコード▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

大きく広がっているようです。

皆様の輝く目が、日本一の文化祭といわれる国立高校の学生と同じだったのが印象的でした。発表者も観る側も共に楽しめるのが、文化祭です。人生100年時代、まずは観る側から、それからお気に入りの団体の門を叩いてみたいらいかがでしょうか？

文化祭に

はじめて参加してみよう
パサール・スニくにたち
釘宮 さち子



〈パサール・スニくにたち〉は、平成29年に国立市芸術小ホールにおいて開講された「冬の一芸塾ガムラン講座」をきっかけにガムラン演奏に触れ、講座終了後に有志が集まって誕生した、くにたち

迎春



生まれのグループです。ほとんどのメンバーがガムラン演奏は初心者でしたが、公民館や郷土文化館などに集まっては練習を積み重ねて参りました。「練習の成果をお客さまの前で披露してみたい...」そんなメンバー達の夢を実現する大チャンス！とばかりに、市民文化祭への参加を決意。この度初参加をさせていただきました。

オープニング式典では演奏の機会を頂戴し、ガムラン行進曲で国立をパレードしてみたい！というアイデアを、実行委員の皆さまのおかげで実現することができました。ガムランの音が国立駅前から公民館まで響き渡り、街の皆さまがインドネシアの衣装を着た不思議な(?)一行を、びっくりしながら見学してくださったことや、他の参加団体の方からお褒めの言葉をいただいたりと、とても思い出深い文化祭スタートとなりました。

12月2日の私たちの本番当日は、多くのお客さまに恵まれ、日頃の練習の成果を思いきり発揮することができました。また、バリ舞踊の方も呼びびし、バリガムランならではの舞踊と演奏の密接な連携を楽しんでいただけたのではないかと思います。そして何よりも、私たちグループ全員が、緊張しながらもこの日をめいっぱい楽しむことができました。

グループ結成からちょうど1年を迎える時期に、文化祭で演奏という目標ができたことは、私たちに大きな情熱と刺激を与えてくれました。このような機会を与えてくださった文化祭実行委員や、文化祭参加団体、演奏に足をお運びくださった皆さまに、心より感謝致します。



第16期公民館だより編集研究委員会のまとめ

成長する「だより」へ

—「これまで」を大切に、「これから」につなぐ—

「公民館だより編集研究委員会」は月1回の定例会で、公民館の担当職員も交え、公民館だよりについての感想や意見交換、「サークル訪問」欄の取材・執筆を行っています。委員は公民館運営審議会委員3名、一般市民委員5名の計8名です。「公民館だより」は単なる「お知らせ」ではなく、市民の学びを支える「読み物」です。

委員の声 編集研委員の経験を通じて

★編集研に参加して、初めて「だより」を全部しっかり読むようになりましたが、公民館の講座がどんなにしっかりと企画され、魅力的であるかを改めて知ることができました。編集研の皆で一緒に読み返し意見交換する中で、レイアウトなど、より見やすい紙面に改良されて、やりがいを感じました。

★毎回、多くの委員の方から公民館の講座に参加した率直な感想を聞くことができ、それを通じて講座の目的や参加者の雰囲気も伝わります。それをもとに、より魅力的な紙面構成につなげようとする議論はとても楽しいものでした。年齢、性別、立場も様々な市民が集う意義がそこにあると感じます。

★同じ講座に別の委員が参加していて反対の感想を持つこともあり、人の感じ方は百人百様だと改めて認識し、そこから議論が生まれることこそが大切だと感じた。参加していない講座の感想を聞くことも大変勉強になった。「だより」はその努力を市民に伝える大切な媒体だということを改めて肝に銘じ、工夫し発展させていく必要があると思う。

★編集研で毎号しっかりと「だより」に目を通して感じるのは、企画も記事も内容の豊かさです。広く市民に行き渡るようにとの思いが感じられました。

★参加できなかった講座等の記事も含めて、「だより」の編集のあり方について議論できたことはとてもよかった。ただ参加するだけでなく限られた中ではあるが、編集研でふりかえりができたものと思っている。

★編集研では、市民にとって公民館や「だより」がどのような場所であるべきなのかを考えることができました。公民館では、大学生が知的好奇心を深められそうなイベントが多数行われています。国立市の大学生が、ぜひそれを知って、見識を深める機会に気づいてほしいと思いました。

さらに磨きをかけるために、委員全員で原稿を読み侃々諤々意見を述べ合いますが、最終的には、執筆委員が自分の表現でまとめ上げ、記名して掲載しました。

紙面批評とともに、毎月の定例会で行われるのが、委員が交代で執筆する「サークル訪問」の記事の推敲です。今期の委員も、スポーツから語学学習、文化活動など、多種多様なサークルを訪問しました。活動を見学し、インタビューや写真撮影まで一人でこなし、そのサークルの魅力が、市民の皆さんにうまく伝わるように努めて原稿を書きました。

第16期公民館だより編集研究委員会(以下、編集研)は、現役の一橋大生が市民委員として参加し、幅広い世代で構成された委員会になりました。任期の終わりにあたり、各委員の率直な意見をアンケート形式で集め、「テーマごと」に「委員の声」としてまとめました。

編集研は、若者から高齢者まで幅広い市民に「だより」を読んでもらうためにはどういう紙面作りをしたらいいかを市民目線に立って話し合い、意見が紙面に反映されているかを職員とともに確認するなどの、紙面批評を行っています。

読みやすいレイアウト、人目を引く記事の載せ方、高齢者に優しい文字の大きさは重要なポイントですが、記事そのものについては社会教育の原点を押さえ人権に配慮する目配りも忘れてはなりません。また、記事の掲載ページや装飾デザインなどに過去からの踏襲で続けられている紙面構成に対しては、時代に合わせて変化していくことも必要と、忌憚のない意見も出されます。

委員の声 「サークル訪問」について

★公民館にはこんなにも多岐にわたるサークルが存在していることに驚いた。さすが市民自治のまち国立だと思う。

★活動のお知らせ欄だけでは伝えられない、そのサークルの魅力が、市民の皆さんに伝えられたならうれしいです。

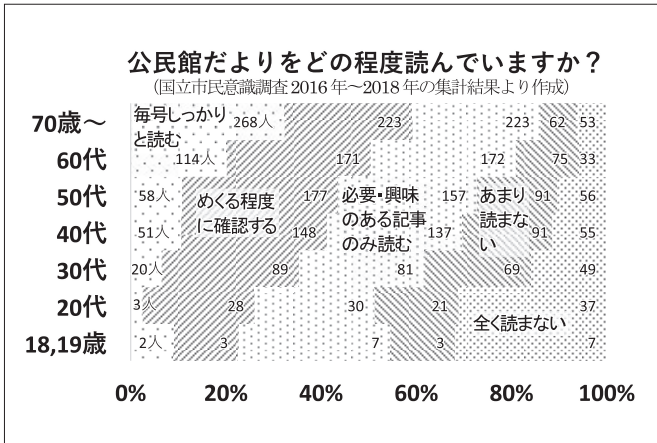
★取材に行くことで世代が違う方々との交流にもなり良かった。

★自分の関心のある所だけではなく、全く知らない世界を垣間見ることができて楽しかったです。サークルの方々に納得していただけるような記事にしようと思ってまとめていました。

★利用する市民の立場から取材側に代わるというのは新鮮な体験でした。取材されるサークルの方々も、市民同士という気安さで、楽しさや意義を話して下さることが多いようです。この風通しの良さが魅力となって伝わるように心がけました。

★長い歴史を持つサークルの場合は、成り立ちを聞くことで公民館との関係などの歴史も同時に学んだ。

★他の委員の「あーだ、こーだ」により新しい気づきがあったり、自分では思ってもいない表現がうまれたり、独りよがりの文章が読み易いものに変わったり。



委員の声 「700号記念特集」について

- ★課題であった若者との意見交換ができたことで、今までにない提案ができたと思う。
- ★講座の中身がどんなによくて、市民のいろんな世代に情報が届かないことには、公民館活動が広く市民に伝わらないと思います。
- ★出席して下さった3人の方は、よくお話し下さり、改めて「ありがとう」です。
- ★市民の方からは反対の意見もありましたが、批判だけでなく今後の公民館だよりのより良いあり方を話し合いながら目指していく、そのような一歩にこの700号記念特集がなればと考えます。
- ★何から何まで時流に乗るような迎合をいいと言っているわけではなく、新しい風、新しい流れを取り入れて柔軟に対応していくのが大切だということだ。それは時に痛みを伴うこともあるが、そうしなければ水は澱んで停滞する。その中心に市民の学びの場を守り、市民に伝えていくという芯を受け継いでいくのは言うまでもない。
- ★新鮮でした。若い世代の方々にも積極的に「だより」を読んでもいただけるような紙面になればいいなと思います。

委員の声 次期編集研に期待を込めて

- ★見出しなど、市民が読みやすいように改善できる点はまだ残されていると思います。
- ★全戸配布という強みは、読まれなければ何の意味もない。特に若い人に浸透しなければ今まで公民館と市民が築き上げてきた「市民が学びたいと思った時に門戸を開いてくれている貴重な場所」という大切なものを受け継いでいく力は先細り、危機に瀕するのは目に見えている。
- ★今、社会は色々な意味の格差が広がっている。だからこそ、無料で、住んでいる街で、貴重な講座が受けられる社会教育の場としての公民館の存在は大きい。「公民館に行く」と世界が広がる」というアピールを広げていけたらいい。
- ★インターネットの活用は必要不可欠です。ただそれに対応できない年代や立場の市民がいることも現実です。現在のシステムの中でインターネットの幅広い活用を進めることは難しいとすれば、その方法を探る議論をまず始める必要があるでしょう。
- ★「くにたちの教育」で実施している音訳版のインターネット提供を、「だより」でもぜひ実現していただきたい。

任期中、「だより」は700号の節目を迎えました。記念特集の記事を編集研が担当することになり、職員とともに企画を検討しました。近年の国立市民意識調査によると、40代以上にはよく読まれている「だより」も、40歳未満では「あまり読まない」「全く読まない」市民が四割前後に達しています。そこで、700号記念特集(2018年6月5日)では、どうすれば公民館の魅力が伝えられるか、そのヒントを探るため、若いみなさんの率直な意見を聞く座談会を行い、特集記事にまとめました。座談会を受けて編集研では将来の



自由な討議は編集研のため

「だより」のあり方について話し合い、「公民館だより」のこれまでも、これから」と題する記事にまとめ700号に掲載しました。座談会には職員も同席し、若い世代の生の声を聞いたことが、「だより」のQRコードや「今月の公民館」を第1面に掲載するなど、新たな試みにつながっているようです。編集研でも、出張で定例会に來られない委員とタブレットの遠隔会議機能を試用するなどしました。一方で新たな試みは、少なからず反発を生むのが世の常であり、むしろ健全な社会と言えます。700号記念特集についても、市民から意見書、抗議文が寄せられ、公民館運営審議会(以下、公運審)より見解を求められることとなりました。編集研では定例会で議論の上、公運審の場で委員長が代表して意見を述べました(第31期国立市公民館運営審議会第22回定例会会議録「30ページ」)。今期の編集研では、編集上の些細なミスが発端となり、著作者人格権について考える機会もありました。また、表現の自由は基本的人権ですが、他者の尊厳を貶めたり感情を傷つけたりする表現を無制限に許す自由ではないことには注意をしたいと思います。人権を何よりも大切にする公民館であればこそ、市民も職員も高い意識を持ち続けることが望まれます。編集研においては、これからも公運審、職員と健全な緊張感を保ちつつ、自由闊達な紙面批評が続けられることを期待しています。第16期公民館だより編集研究委員 井上恵子、大木謙士朗(2017年6月まで)、川田幸生、隈井裕之(副委員長)、佐藤節子、高木裕子(委員長)、鶴田美緒、西尾万樹、原田千智(2017年7月から)

《講座報告》

「認知症とともに生きる」連続講座はいま・・・

認知症とともに生きる実行委員会

公民館と、市民で構成されている「認知症とともに生きる実行委員会」では、「認知症」を自分のこととして受けとめ、理解を深め、安心して年を重ねられるよう、いろいろな企画を実施してきました。これまでの学びを振り返るとともに、活動を報告します。

「認知症はたいへん」とメディアは煽ります。何が大変なのか、誰が大変なのかよく分らないから不安になります。

「認知症の親をみてきたけれど、一人ひとり違うので、介護者同士もなかなか一緒に話せない。認知症は個々バラバラにがんばるしかないのか」という声もあります。

長生きできる時代を生きている私たちは、自分のこととして避けては通れない認知症を、もつときちゃんと知りたいと痛感し、公民館とともに実行委員会をスタートしました。

■こんなふうに進めてきました

10人余りの実行委員。それぞれ認知症への関心の度合いも介護経験も違います。まず「自分が知りたいこと」を思い浮かべ、認知症に関連する本を読みました。さら

に「認知症の人をどんな目でとらえているか」、「皆で知っておきたいことは何か」を中心に読み込んでいきました。そして人をトータルに見ている精神科医師に「認知症とは何か」を語ってもらった連続講座を企画しようと集約していきました。

これまで3回の講座を開催しました。第1回 「暮れなすむ脳とは〜内と外からみた物忘れと認知症〜」(内原 俊記氏)

第2回 「老いの意味を考える〜認知症を問いなおす〜」(大井 玄氏)

第3回 「認知症の理解とケア〜「正しい家族介護」なんてない!〜」(齋藤 正彦氏)

公民館地下ホールがいつばいになるくらいの人に参加。うれしい悲鳴です。講演を聴いて散会では

なく、時間の許す限り、お互いにひと言でも自分の言葉で感想や疑問を出し合い、お互いの受け止めから自分の見方を深めようとしてきました。

■3回の講演を経て

3人のお話を聞き、「認知症とは何か」の輪郭がはっきりしてきました。3人の方の言葉を要約すると次のようになります。

・認知症は突出して問題視されるが、人は脳だけでなく、身体全体が老いていく。ごく自然のことです。

・暮れなすむ脳をのぞいてみると、認知症の出た人とそうでない人との差ははっきりしない。年をとると皆アルツハイマー型認知症と言えらるのではないのでしょうか。それは老筆であり、異常なことでは

ありません。老いて死に至るとき



の恐怖や痛の疼痛を和らげてくれる自然からのプレゼントです。認知症を病気ととらえるより老いの延長と考え、医療で治すというより生活の支障に注目していきましょう。

・認知症予防にいいと言われているもので科学的根拠のあるものはほとんどありません。元々の個人差や加齢による脳のこわれ方も違うので、効くのも違う。残った力をどう生かすか、自分にあうものを求めることが大事です。

・認知症の人は「直前の記憶が失われ、あるはずのものがない。ないはずのものがある。やったことをやってないと言われ、やっていないことをやったと責められる」中に、不安いっぱい立ちすくんでいます。

・その人を、どう支えていくか「できないことをさせないケア」

です。「どうふのみそ汁をつくる」例でいうと、出汁をとり、冷蔵庫からとうふを取り出したものの「とうふは何に使うのかな」と迷っていたら、「みそ汁の具だよ」と言っておけばよい。傍らにいる者として、本人が何に戸惑っているのかを見る目を養い、失敗せずに次に進めるよう支える。失敗する前に目標を下げると本人は不安が軽くなり、できなくなったことをスッと受け入れていけるのです。(覚えていないとは思いますが、新しい覚えられないのが認知症です。)

やがて、今できていたとうふを采の目に切ることもできなくなり、傍らの人がやるようになるのも認知症の現実です。できる時にできることを一緒にしながら、これ以上不安がらせない、苦しめない暮らしをつくっていくことこそ大事です。

■そして、これから

私たちは今、3人の講師から認知症に向き合う大事な視点を手渡されました。

認知症については原因すらわかっていない、あいまいなものだということ。それなのに「こわい」、「たいへん」と不安を煽り、予防に走らせる空気に踊らされている

〈認知症とともに生きる〉第4回講座 自分ごととしての認知症 ～認知症になっていいまち “認知症とともにによりよく生きる”～

お 話 木之下 徹

(のぞみメモリークリニック 院長)

認知症そのものは命を奪うものではありません。それでも、認知症になったら……と考えたときの不安はとて大きなものです。それは、私たちが「認知症」に対して抱くイメージが、日々の生活の中で新聞やテレビなどから入ってくる情報を、そのまま常識と思っているからではないでしょうか。

木之下さんは、認知症になっていいまちづくりをめざしたいとおっしゃいます。だれもが認知症になる可能性がある中、自分ごとと捉え、認知症を取り巻く文化を変えていくことを考えたいと思います。

と き 1月31日(木) 昼1時～4時

ところ 公民館 地下ホール

定 員 85名(当日先着順)

*申し込みは不要です。ご自由においでください。
*認知症とともに生きる実行委員会との共同企画です。

〈親子で遊ぼう・考えよう〉

巻物絵本をつくろう!

身長よりも長い巻物絵本を親子で作ります。細長い紙に絵の具やクレヨン、シールで自由にお絵かきし、オリジナル絵本を作りましょう!

講 師 山田 修平

(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

と き 1月20日(日) 朝10時～12時

ところ 公民館 地下ホール

持ち物 ハンドタオル、飲み物

対象・定員 子ども(3歳以上～小学生)
と保護者16組(申込先着順)

申込先 1月8日(火) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141



*この講座は、さまざまな遊びを通して子どもとふれあい、他の親子や異年齢の子どもたちとの交流を通して、大人として、保護者としてすべきことは何かを感じ取り、考えていく機会となるよう実施しています。

私たちがだったということ。
誠実に認知症の人に向きあってこられた医師からの納得のいく正しい知識、そして「誰もがみんな誰かの大切な人だ」と思い合える人がいれば、認知症になってもこわくないかもしれないと少しずつ感じ始めている。
それらを何度も問いながら、自分が出会う認知症の人との経験を重ね、心にしみこませる理解にしていきたい。やがて「認知症ってこういうことなんだよね」と自分の言葉で語れるようになった時、今よりもっと理解が深まり、偏見から解放されていくと予感して



感想や質問を話し合い、理解を深める

一人でも多くの人が関心をもつて、私たちの輪に加わってください。
私たちが望んでいます。

シネボックス 公民館映画会
『ニッポン無責任時代』
東宝 1962年 カラー 86分 16ミリ版

監督 古沢憲吾
出演 植木等、ハナ肇とクレージーキャッツ、重山規子、久慈あさみ、団令子、田崎潤、由利徹、松村達雄ほか



無責任なら世界一。調子が良いのもケタはずれ。オトボケ度胸で煙にまき、恋と出世にスーイスイ。「日本一(世界一?)の無責任男」植木等の名を不動のものにした快(怪?)作。とにかく万事調子よく無責任。そのくせ、やる事なす事すべてうまくいってしまうという、そのバカバカしさ、いい加減さこそ、疲れた現代人の一服の清涼剤となる作品です。

と き 1月27日(日) 昼2時～(開場1時)

ところ 公民館 地下ホール

定 員 85名(当日先着順)

*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈くにたちブッククラブ 幻影を追う、記憶をたどる〉
津村記久子『君は永遠にそいつらより若い』
(ちくま文庫)

講師 金井 景子 (早稲田大学・日本近代文学)

とき 1月10日(木)夜7時半～9時半

ところ 公民館 3階講座室

申込先 公民館 ☎ (572) 5141

*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が読み
を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

〈社会体育事業〉

「街を・山を歩く」第3回

日時 1月29日(火) <雨天中止>

集合 谷保駅北口 朝9時

実施方面 武蔵村山、狭山湖方面(距離:約10キロ 高低
差あり)

対象 市内在住、在勤者 ※行程はウォーキング初心
者向けです。

チラシ 1月10日(木)から市役所3階生涯学習課、市
民総合体育館、公民館、北・南市民プラザ、国
立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザで配布
します。

申込方法 チラシの内容(日程、コース、申込方法等)を
確認のうえ、1月11日(金)から21日(月)の
期間に下記までお申し込みください。

申込・問合せ先 教育委員会 生涯学習課
社会体育担当 ☎ (576) 2107 (直通)

〈図書室のつどい〉

『仏像と日本人』
～宗教と美の近現代～

お話し 碧海 寿広

(龍谷大学 アジア仏教文化研究センター)

日本全国いたるところにある仏像は、古くから信仰の対
象として拜まれてきました。一方、博物館などでの展覧会
は、仏像を美術品として鑑賞するたくさんの人で賑わいを
みせています。

著者の碧海さんは、この仏像鑑賞が始まったのは、実は
近代以降だとおっしゃいます。近代以降、時代の流れとと
もに日本人の宗教と美に関
する感性は劇的に変化しま
した。そのことを岡倉天
心、和辻哲郎、土門拳、白
洲正子など、各時代の知識
人が仏像に向き合う姿にも
触れながらお話いただきま
す。



〈碧海さんの本〉

『仏像と日本人』(中公新書)、『近代仏教のなかの真宗』
(法藏館)、『入門 近代仏教思想』(ちくま新書)ほか

とき 1月18日(金)夜7時～9時

ところ 公民館 3階講座室

定員 35名(当日先着順)

*申し込みは不要です。ご自由においでください。ただし、
定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈スロヴェニア映画上映会 公民館・一橋大学言語社会研究科共催〉

『雄鶏の朝食』

監督マルコ・ナベルシュニク
2007年 カラー125分 DVD版

スロヴェニアという国をご存じでしょうか。「鉄のカー
テン」崩壊に伴い1991年にクロアチアやマケドニアと共に
旧ユーゴスラビアから独立した新しい国。その複雑な歴史
や豊かな芸術文化に触れる機会は普段めったに訪れませ
ん。

マルコ・ナベルシュニクは現代スロヴェニアを代表す
る若手映画監督の一人です。代表作『雄鶏の朝食』は平易
で軽妙な語り口ながら、豊かな地方文化を持つスロヴェ
ニアの様々な表情と、独立によって旧ユーゴ時代から一変し
てしまった社会の中で複雑に揺れる人々の心をこもごもに
映し出して、国際的にも高く評価されました。

映画は特別製のわかりやすい日本語字幕で上映します。
また映画をより深く味わうために、上映後には歴史と背景
についての専門家による簡単なレクチャーと、おいしいお
茶菓子を囲んでのパネルトークを予定しています。肩の凝
らない雰囲気映画を楽しみながら、この機会にスロヴェ
ニアという国に触れてみましょう。

〈提供・字幕製作・背景レクチャー〉

三田 順(北里大学)・山崎 信一(東京大学)

〈共催・パネルトーク〉

一橋大学言語社会研究科/武村知子ゼミ/一沱文学会

とき 1月20日(日)昼3時～6時半(2時半開場)

ところ 公民館 地下ホール

定員 50名(当日先着順)



*成人向けのシーンが
ありますのでご注意ください。



*ご自由においでください。た
だし、定員を超えた場合は入場
を制限させていただきます。

「しょうがいしゃ青年教室」・「喫茶わいがや」 ボランティアスタッフ大募集中!!



～月1回からのボランティア体験で、あなたの世界を広げてみませんか?～



公民館にある喫茶コーナー「わいがや」・しょうがいのある方とレクリエーション活動を行う「しょうがいしゃ青年教室」では、一緒に活動する仲間を募集しています。

ここでは、しょうがいのある・なしに関わらず、みんなで話し合い楽しみあい、ともに学びあうことを目指しています。「喫茶わいがや」は市民のみなさんの交流の場であると同時にしょうがいしゃ青年教室の喫茶実習の場でもあります。しょうがいのある方の学びの場にもなってきた取り組みは、今年「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受け、各地から視察が訪

れるなど、その考え方や活動の大切さは、く に たち から 様々なところへ届けられています。

ハンドドリップのコーヒーを淹れてみたい……新しい自分の居場所があると楽しいかもしれない……そんなちょっぴり自分の世界を広げてみたい気持ちがあれば、ボランティアの経験がなくても月1回の参加からでも大丈夫!ぜひお気軽にお問い合わせください。

対 象 10代後半～30代くらいまでの活動に興味のある方
 申込・問合せ先(随時) 公民館 ☎ (572) 5141
 e-mail : sec_kominkan@city.kunitachi.lg.jp



様々な活動にチャレンジ!

ハンドドリップコーヒーをどうぞ!



メールQRコードはこちらです!

公民館運営審議会報告

12月11日(火) 第32期第2回定例会を開催。委員15名、館長、職員2名が出席。傍聴2名。

協議事項

委員長選出について継続審議し、全員一致で三好紀子氏を選出。副委員長には青山鉄兵氏を選出。東京都公民館連絡協議会委員部会委員には今村和義氏、社会教育学習会担当には天野聖子氏・高野宏氏・龍野瑤子氏が選出された。尚、社会教育委員の会委員推薦については、2名の立候補者があったが、前任者の任期が4月末までの為、次回以降に改めて話し合うこととなった。

委員研修

大串委員を講師に、公民館はなぜ生まれたのか、また公民館の歴史、社会教育法についての講義があった。

報告事項

○公民館だより編集研究委員会
 新田委員の顔合わせを行い正・副委員長を選出。また11月・12月号について意見交換をした。

○社会教育委員の会

国立市生涯学習振興・推進計画素案について意見交換。尚、この計画素案に対するパブリックコメントの募集を12月中に実施。

○東京都公民館連絡協議会

2月3日予定の東京都公民館研究大会開催に向けて、打合せを行った。

次回開催1月8日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。(今村)

ひるば

(8ページにもあります)



雪景色の大学通り

撮影 和賀 一さん(西)

く に たち 話 し 方 勉 強 会 会 員 募 集

人前で思うように話せず困ったご経験はありませんか?発声、スピーチ、朗読などを行なっています。話し方の上達と同時に、見聞を広める会です。見学にどうぞ!

日時 第二、四(土) 夜7時～9時
 場所 公民館 講座室又は集会室
 連絡先 中浦(577) 5125

楽しく、ウクレレひきませんか

大きな声で、歌いながらウクレレをどうぞ! 元気な仲間とひと時をおくってみませんか。お気軽にお越し下さい、お待ちしております。

日時 団体名「ブアイリアヒ」
 第一、三(土) 朝10時～12時
 場所 西福祉館 会議室
 連絡先 加藤(574) 9797

国立センタービル

混声合唱を楽しみませんか。四月の発表会に向けて練習しています。笑いの絶えない元気な会です。楽譜の読めない方、男性も大歓迎です。

日時 第一、三(金) 昼1時～3時
 場所 矢川集会所
 連絡先 三浦(572) 1028

「ひらやの里」会員募集

オープンして1年半がたちました。ひらや照らすは市民のたまり場です。スタッフになって、みなさんの居場所になってみませんか?お待ちしております。

日時 毎週水(土) 朝10時～4時
 場所 富士見台2-38-12
 連絡先 大井090(694) 8984

今月の公民館 (1月、2月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 10日(木) 夜 くになちブッククラブ
津村記久子『君は永遠にそいつらより若い』
- 18日(金) 夜 *図書室のつどい
「仏像と日本人」
- 20日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
「巻物絵本をつくろう！」
- 20日(日) 昼 *公民館・一橋大学言語社会研究科
共催 映画『雄鶏の朝食』
- 27日(日) 昼 *CINEVOX公民館映画会
『ニッポン無責任時代』
- 31日(木) 昼 *認知症とともに生きる
自分ごととしての認知症

ひろば

(7ページにもあります)



正月の風物詩

撮影 小川 清成さん(くにたち写遊会)

紙フレスコ画講座

美術サークル「わ」が主催します。内外でご活躍の鈴蘭講師オリジナルの作画法です。画材は全て講師が用意いたします。全4回土曜2時から4時30分。有料です。
日時 1月12・19日2月2・16日
場所 公民館 講座室など
連絡先 小宮090(402) 6974

数学を楽しむ教室(1月期)

第一部は一般の方、第二部は高校生が対象です。手も動かし、数学に関心がなかった方にもこんなに面白く身近なのだと感じていただきます。気軽にお越しください。
日時 1月12日(土)26日(土)昼1時
場所 公民館 集会室
連絡先 三浦070(5084) 8571

くにたち国際友好会WING

1月の異文化コミュニケーションの会は、ウクライナの歴史・文化・諸事情について、一橋大学社会学部留学生ドゥブニコバ・ヤンナさんに講演していただきます。
日時 1月17日(木) 夜7時~9時
場所 公民館 集会室
連絡先 和田090(349) 2110

憲法とわたしたち連続講座 No.52

「改めて、私たちの憲法を学びましょう。」講師西川重則氏(国立在住・ジャーナリスト)。多くの市民の方々のご参加を、お待ちしております。資料代500円
日時 1月26日(土)昼1時半~4時
場所 公民館 地下ホール
連絡先 実行委員会(574) 9210

サークル訪問(2018)「ぎぎねの会」

「ぎぎねの会」は、2017年に公民館で開催された朗読講座を受講したメンバーの有志が立ち上げたサークルだ。

メンバー10人のうち集まれるのは毎回5、6人。朗読や演劇の経験者はおらず、活動方法も皆で話し合いながら試行錯誤してきたという。「目標を持ったほうがいい」という周囲の勧めもあって、くにたち市民文化祭で発表会をすることに。「ちゃんとやらなくちゃ」と気合が入り、三鷹や八王子、都心まで、他の朗読サークルの発表会を聞いて自分たちに合うスタイルを模索している。

「私はグループ活動が苦手ですが、ここは自由に話し合って出来るし、とても楽しい」とメンバーの一人。詩吟をやっていた人やガイドのボランティアをしていた人は、元々「言葉を発することに興味があった」のが朗読をやるきっかけだったという。

伺った日は発表会に向けて猛練習の日。まずは身体をゆるめて声が出るように、和気あいあいとしゃべりをしながらの体操。短文や早口言葉を「あ行」から読んで

いく発声練習は30分以上になった。大人になると音読とは縁がなくなるが、健康に良さそうだ。

12月の発表会で行く全員参加の「まどみちお」作の詩のメドレーを、読み方を変えて一緒に読んでみたり、掛け合いにしてみたり、工夫を重ねていくうちに段々と形になっていく。

「発表会がボロボロだったらどうしましょう」「その時は、ほかの人に希望を与える会ということ」と大笑い。ただ今、メンバーを募集中です。

日時 第2・4金曜日 午後2時~4時

場所 公民館

連絡先 加藤(574) 9129

〈文・写真 西尾万樹〉



どう読むか？